

1月号、お届けいたします。

今月号にもご多忙の米田ガバナーの俳句が掲載されています。皆さんもご投稿を。

ロータリーの友編集委員会 地区代表委員 岡本勝士

地区関連の記事

① 2010-11年度 地区大会略報 横組みP28

当地区の地区大会が紹介されています。米田ガバナーが現況報告の締めくくりとして話された「皆さまのクラブがこの現状を踏まえて、これを機に、ますます大きく、豊かに、大胆になられることを祈念します」を受けて皆さまのクラブはどのような活動を?RI会長は今月号で『評価のとき』とメッセージを送られています。大胆にRI会長賞に挑戦しませんか。

② 俳壇——縦組み P12

一人住む母も新米炊く頃か (堺フェニックスRC 米田真理子)

③ 柳壇——縦組み P12

方言に魅せられる旅腹いっぱい (新宮RC 塩崎公治)

内側の騒ぎ気になる塀の外 (大阪金剛RC 井出胡蝶)

④ バナー自慢

有田南RCバナー —— 縦組みP14

堺西RCバナー —— 縦組みP15

⑤ ロータリー ネットワーク

写真展でロータリーを広報 —— 有田南RC 縦組みP24

横組み記事

① RI会長メッセージ 評価のとき RI会長 レイ・クリンギンスミス P1

クリンギンスミスRI会長は、ロータリー年度の折り返し点に立っている今、自分たちのクラブの長所や短所を見直すときだと、そして、採点表をクラブ全会員で共有してほしいと述べられています。「2010-11年会長賞プログラム」について、その申請に関する作業を1月に始めることの意味について語っています。また、新しい「会長特別功労賞」についても紹介しています。

② 特集 ロータリー理解推進月間 故きを温ね新しきを知る P5~19

シェルドン……忘れ得ぬその名 P8-12

第2標語「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」は、どのような背景で生まれたのか。その言葉の生みの親、アーサー・シェルドンについて勉強しましょう。

縦組み記事

① SPEECH 日本の心 P2-6

(社団)日本ユネスコ協会連盟会長 松田 昌士

『日本人はもう一度、自分の周りを振り返ってみる、ということをしなければいけません。世界の中の日本といっても、それは言葉だけで現実にはあり得ない、と思っています。日本人の言うことに耳を傾けてくれる人が、だんだん少なくなっているのを実感します』

と訴えるにあたり、具体的な現実を話されています。そして、教育の大切さを。

② この人、この仕事

自分の目に見えるところで人の役に立つ仕事 P7-9

弁護士 本田 悟士 熊本グリーンロータリークラブ

29歳のロータリアンである本田弁護士、「クラブに所属していると、職業奉仕、社会奉仕の訓練が自ずとできる。…『偽善』を繰り返すうちに本当の『善』ができる気がする」と述べられています。みなさんは?